

鶏舎における成功事例



巢外卵対策




Aviagen®



鶏舎における成功事例

巢外卵対策

何故巢外卵が問題であるのか？

床で産み落とされた卵（巢外卵）は、著しく高い汚染のリスクがあり、孵化率や雛質の低下につながる。理想的な巢外卵の数はゼロだが、どんな鶏群でもいくらかの巢外卵を覚悟することは当然である。もし、巢外卵の割合が鶏群の生涯を通して2-3%以上であるならば、それは問題である。巢外卵は産卵開始時期においてはより高くなるが、産卵ピーク時期までには1-2%まで減少するはずである。高い巢外卵率の理由を調査し、その問題を解決するための行動をおこす必要がある。



最良の巢外卵対策

巢外卵対策のカギは、鶏にネストを使わせるための早期の訓練である。
予防は治すことよりも得策である。

以下に予防のための管理の課題を3つ述べる。

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 訓練 - 鶏にネストを使わせる |
| 2 | 環境 - ネストに鶏を留める |
| 3 | 他のネストになり得る場所を除去する
- 鶏が床上で産卵することを防ぐ |



産卵前(育成期)

- 1 産卵期においても、育成期と同様の給餌および飲水方法をとること。
- 2 28日齢には止まり木や足場を導入すること。
育成期においても、産卵期と同じタイプの止まり木を用いること。鶏1羽あたり3cm/1.2in、または500羽あたり1m²/10.8ft²を用意すること。
もしくは現地の法令(規則)に則ること。
- 3 スラットの上に飲水器を配置すること。これは鶏がスラットへ跳び乗るための助けになるだろう。
- 4 育成期の照度は、現地の法令(規則)を守るべきであるが、最低光度は10-20lux(1-2fc)を用いる必要がある。これは鶏が動いて、止まり木や足場を利用するための助けになるだろう。
- 5 給餌機や飲水器に電線を張らないこと。
これは鶏がネストを使うために跳び上がる際の妨げになるだろう。





鶏舎における成功事例

巢外卵対策

移動

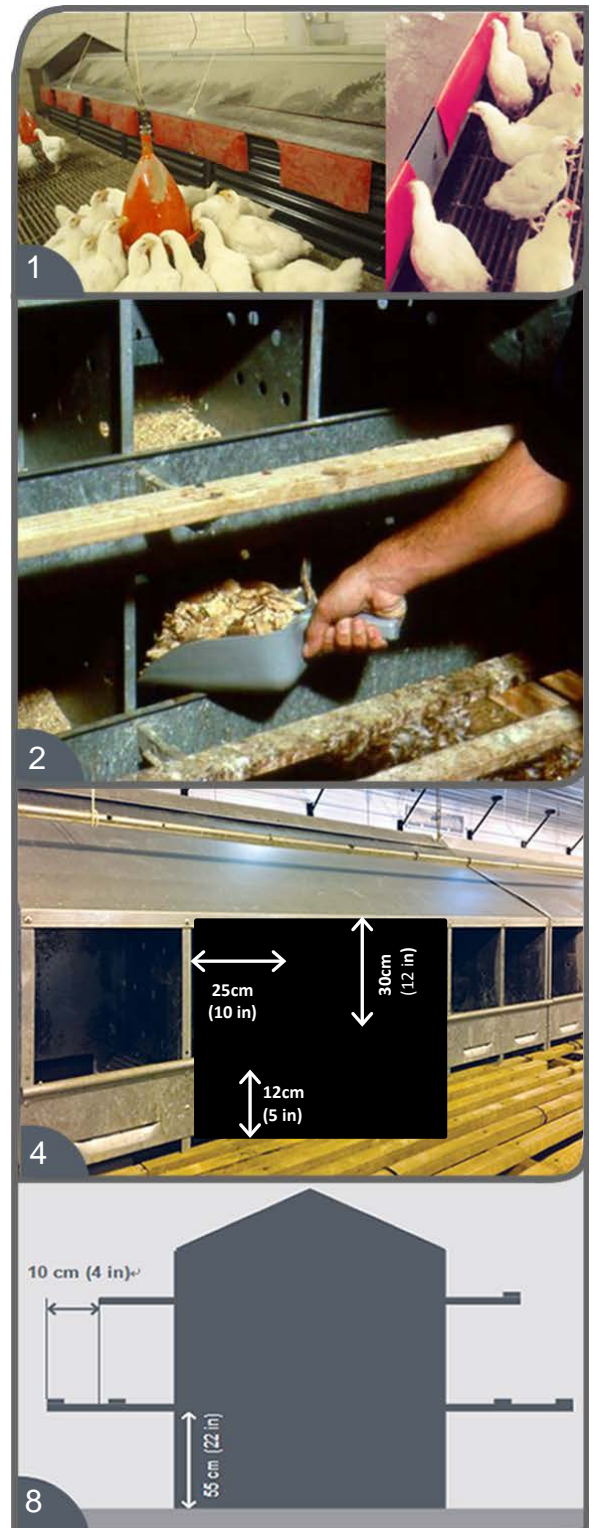
- 1 移動前に成鶏舎内の全ての設備が設置され、且つ使用可能であることを確認すること。立ち上げ方式の場合は、生産期用の設備を20/21週令までに設置すべきである。
- 2 鶏を直接スラットの上に乗せてあげる。これは鶏がスラットを利用して水を見つけるための手助けになるだろう。
- 3 鶏をカゴからスラットへ移す時はやさしく行うこと。



生産期

ネスト

- 1 初卵の出現が予期されるまでネストは閉めておくこと。
- 2 ネストや止まり木は修理しきれいに保つこと。ネストは雌にとって魅力的なものにしなければならない。手取りのネストボックスの場合は、ネストの材質によく注意する必要がある。
- 3 ネストは、消灯1時間前に閉じ、点灯1時間前に開ける。これにより夜間に鶏がネスト内に留まることを防ぐことができる。巢外卵率が高い場合はより早く(点灯2-4時間前)ネストを開ける必要がある。
- 4 ネストの入り口は雌鶏が快適に入り、向きを変え、出るために十分な広さでなくてはならない。
- 5 ネストは丈夫な入り口と底面を有し、しっかりと固定されていなければならない。
- 6 スラットの高さは、床から最大で25-30cm(10-12 in)にする必要がある。
- 7 スラットの傾斜は、5%以下にする必要がある。
- 8 手取りネストボックスの場合は、最下段の止まり木が床から55cm(22 in)を超えてはいけない。最下段の止まり木は、2段目より最低でも10cm(4 in)伸ばす必要がある。
- 9 手取りネストの場合は、1ネストあたり雌 3-4 羽、自動ネストの場合は 1リニアメートル = ネスト 1台 (約 25cm 幅× 10 穴)あたり最大雌40羽を与えること。



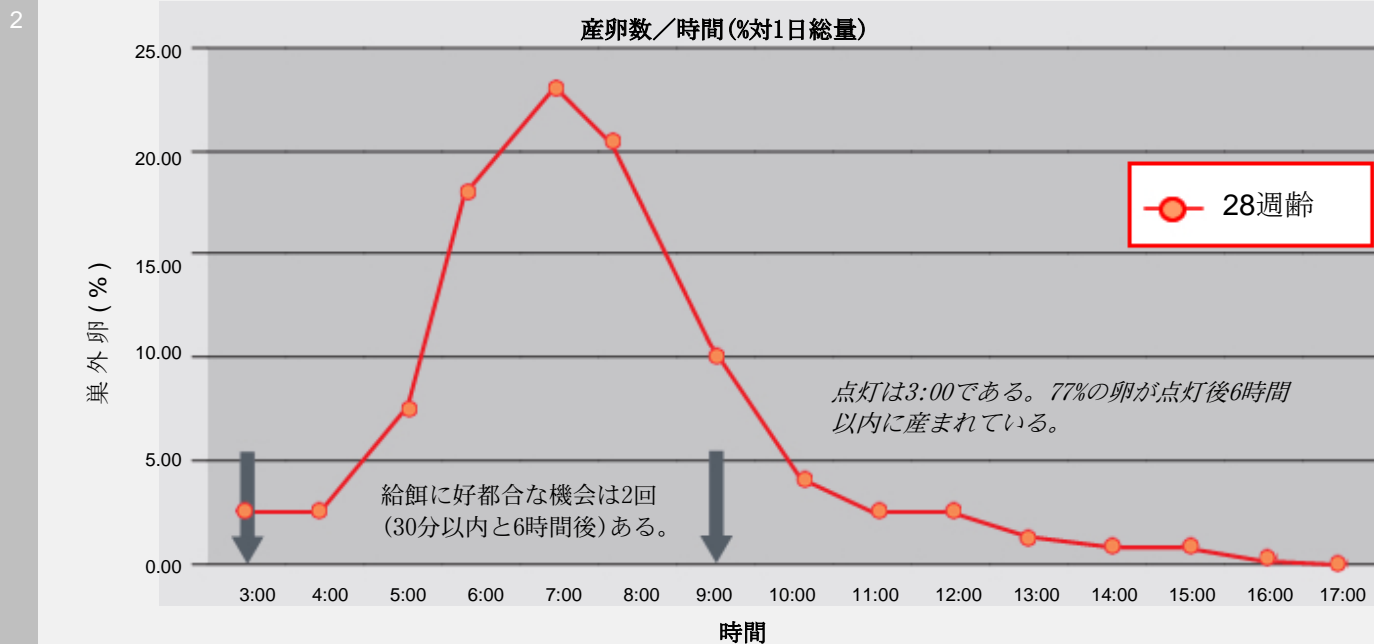


鶏舎における成功事例

巢外卵対策

餌と水の管理

- 1 餌は点灯後30分以内、または6時間後に与えること。卵を最も産む時間帯での給餌は避けること。育成-生産共用施設の場合は、育成期と生産期で給餌のタイミングが異ならないように注意すること。



- 3 鶏が常に水を飲めるようにする必要がある。
- 4 給餌機や飲水器ラインの上に電線を張ってはならない。
- 5 給餌行動を観察するために、給餌時間に鶏群を見に行くこと。
この時間は、巢外卵を増加させる何かしらの潜在的な問題を特定するために、都合の良いタイミングである(例えば、給餌スペースが不十分であったり、給餌機がネストへの妨げになっていたり等)
- 6 可能であれば、給餌機ラインを使っていない時は吊り上げること。これは給餌機がネストへの障壁となる可能性を防ぐことができる。
- 7 一般的な給餌機の管理ポイント
 - ・ 給餌機間の距離は最低でも100-120cm(47 in)以上にする必要がある。
 - ・ スラット区域に置かれた給餌機や飲水器は、スラット区域の端から最低でも60cm(24 in)以上離す必要がある。



産卵期の給餌スペース			
雄		雌	
トラックフィーダー cm (in)	パンフィーダー cm (in)	トラックフィーダー cm (in)	パンフィーダー cm (in)
20 (8)	13 (5)	15 (6)	10 (4)

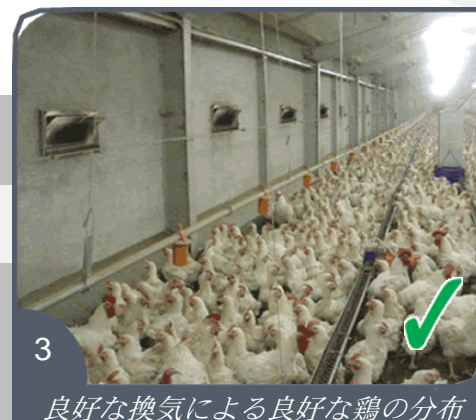
光線

- 1 推奨される光線プログラムに従うこと。
- 2 光は、適切な光量(最低 20lux/2fc)で鶏舎全体に均等に行き渡る必要がある。
- 3 光量が足りない部分や陰を取り除く必要がある。
スラットの上、クーリングパッドの備わった鶏舎における空気の流入口パッドの前、および手動ネストの下には、追加の明かりを備える必要がある。
- 4 自動ネストの場合は、可能ならば、ネスト前の光量が敷料区域における最も光量の低い場所よりも明るくならないよう注意する。



換気

- 1 換気システムは、温度を18~24℃ (64~75° F)に保つ必要がある。
- 2 ネスト内は通風は避けること。
- 3 換気は鶏舎全体に均等に行き渡らせなければならない。
換気が不均一になると、鶏が鶏舎内でより快適な場所へと移動して分布の偏りが生じ、不自然なネスト不足が引き起こされる。



良好な換気による良好な鶏の分布



換気不良による鶏の分布不良



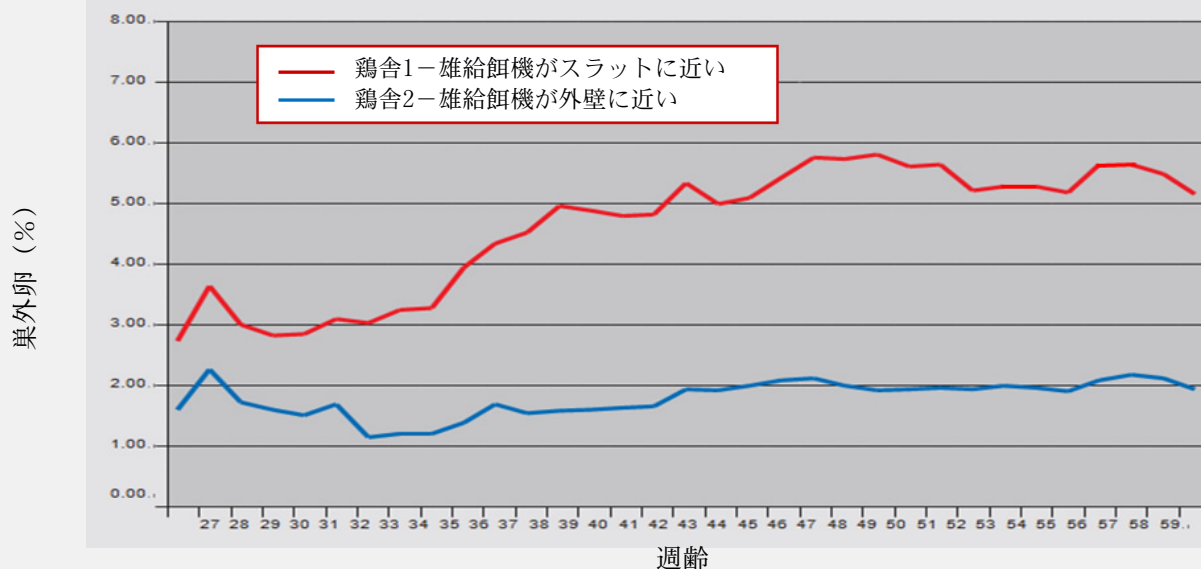
鶏舎における成功事例

巢外卵対策

雄の影響

- 1 雄と雌の成熟期は同期させなければならない。
- 2 過度の交配は避ける；推奨される交配率に従うこと。雄が多すぎると、雌がネストへ向かう際の妨げになる可能性がある。
- 3 可能であれば、雄の給餌機の位置はネスト区域から離すこと。

4



3

雄フィーダーをネスト区域から離して配置すると、オスがネストへの障壁となることを防げる。

収容密度

- 1 高い収容密度は避けること(1m²あたり5.5羽より少なく/1羽あたり3.1 ft²)。
高収容密度はネストスペースを圧迫し、鶏が動く際の障壁を増加させる。

一般的な管理ポイント

- 1 産卵期間中は定期的に鶏舎内を歩くこと。
 - ・これは鶏を床から離しスラット上へ導く手助けとなり、特に産卵ピーク前の時期には重要になる。
 - ・産卵期の初めの3週間は一日当たり10-12回は鶏舎内を歩く必要がある。その後は巢外卵の回収や床に巣を作ろうとしている鶏を動かすために、一日最低6回は歩く必要がある。
 - ・床に巣を作ろうとしている鶏をやさしく拾い、ネストに入れてあげること。
- 2 自動集卵機がある場合は、初卵が産まれる前から1日何回か集卵ベルトを動かすこと。
これにより鶏を集卵機の騒音に慣らせることができる。
- 3 ネスト以外の卵は頻繁に回収すること。
- 4 鶏の健康 病気の鶏や暑がっている鶏は活動が衰え、産卵のためにネストへ向かう可能性も低下する。



A light gray silhouette of a person in a dynamic pose, possibly a dancer or athlete, set against a background of horizontal dotted lines. The figure is positioned in the lower right quadrant, with one leg extended forward and arms in a fluid motion. The background consists of evenly spaced horizontal dotted lines across the entire page.

提示された情報の正確さと関連性を保証するために、あらゆる試みがなされています。しかし、Aviagenはトリの管理に情報を使用することの結果について、いかなる責任も負いません。

チャンキー種の更なる情報については、日本チャンキー担当スタッフにお問い合わせください。

